



Title	Effect on Outcome of an Increase of Serum Cardiac Troponin T in Patients With Healing or Healed ST-Elevation Myocardial Infarction
Author(s)	清水, 政彦
Citation	大阪大学, 2008, 博士論文
Version Type	
URL	https://hdl.handle.net/11094/48933
rights	
Note	著者からインターネット公開の許諾が得られていないため、論文の要旨のみを公開しています。全文のご利用をご希望の場合は、大阪大学の博士論文についてをご参照ください。

The University of Osaka Institutional Knowledge Archive : OUKA

<https://ir.library.osaka-u.ac.jp/>

The University of Osaka

氏名	清 水 まさ彦
博士の専攻分野の名称	博士(医学)
学位記番号	第 21795 号
学位授与年月日	平成20年3月25日
学位授与の要件	学位規則第4条第1項該当 医学系研究科情報伝達医学専攻
学位論文名	Effect on Outcome of an Increase of Serum Cardiac Troponin T in Patients With Healing or Healed ST-Elevation Myocardial Infarction (治癒または治癒途上のST上昇型心筋梗塞患者における血中トロポニンT上昇と予後との関連)
論文審査委員	(主査) 教授 堀 正二 (副査) 教授 磯 博康 教授 澤 芳樹

論文内容の要旨

〔目的〕

高度心筋虚血ならびに急性心筋梗塞診断について有用性が確立している心筋トロポニンT(cTnT)について、心筋虚血の残存のない、心筋梗塞既往患者において測定することの意義を明らかにする。

〔方法ならびに成績〕

ST上昇型急性心筋梗塞1,807症例のうち、自覚症状および心電図にて心筋虚血の残存が考えられた376症例、慢性透析中の11症例、検体不良の3症例を除外した1,417症例を対象に、梗塞発症慢性期(28±7日)に血中cTnT値を測定し、異常値の検出頻度および予後との関連を検討した。血中cTnTの微量上昇(0.01 ng/ml以上、0.1 ng/ml未満)を554症例(39.1%)において認めた。心筋壊死の診断基準である0.1 ng/ml以上の症例は4例のみであった。全症例のうち、cTnT上位25%群(>0.04 ng/ml、n=353)を高cTnT群、残り(<0.04 ng/ml、n=1,064)を低cTnT群とした。平均1,042日の観察期間中、84症例の死亡と、83症例の非致死性再梗塞を認めた。高cTnT群は、他群と比較して全死亡(8.2% vs 5.2%、P=0.049)、非致死性再梗塞(8.3% vs 5.1%、P=0.048)の発症頻度が高く、古典的冠危険因子(高血圧、高脂血症、糖尿病、喫煙、家族歴)の有無、年齢、性別、治療内容(再灌流治療の有無、退院時処方)とは独立した予後予測指標であった(全死亡;ハザード比1.79:1.10-2.90、P<0.02/非致死性再梗塞;ハザード比1.50:1.13-2.20、P<0.03)。

〔総括〕

急性心筋梗塞は予後不良の疾患であり、予後改善のため、予後規定因子を明らかにする必要がある。cTnTは、心筋障害・心筋壊死のマーカーであり、高度心筋虚血および急性心筋梗塞の鑑別診断に有用であるとされているが、心筋虚血の残存のない梗塞慢性期のcTnTの微量上昇は、その後の虚血性心イベントの発症と関連していると考えられ、cTnT測定の意義を拡大するものである。

論文審査の結果の要旨

本研究は、1,417症例のST上昇型急性心筋梗塞症例を対象に、梗塞発症慢性期（28±7日）に血中心筋トロポニンT値を測定し、異常値の検出頻度および予後との関連を検討した。その結果、血中心筋トロポニンT検出（ ≥ 0.01 ng/ml）症例を554症例（39.1%）において認めた。全症例について、心筋トロポニンT値上位25%群（ ≥ 0.04 ng/ml、n=353）を軽度上昇群、残り（ < 0.04 ng/ml、n=1,064）を非上昇群と2群に分割した。軽度上昇は、年齢、性別、古典的冠危険因子（高血圧、高脂血症、糖尿病、喫煙、家族歴）の有無、治療内容（再灌流治療の有無、退院時処方）とは独立した予後予測指標であった（非致死性再梗塞；ハザード比 1.50 : 1.13-2.20、P<0.03）。心筋トロポニンTは、心筋梗塞急性期の診断のマーカーとしてその有用性が確立しているが、本論文は、心筋虚血残存のない梗塞慢性期に軽度高値をきたす症例が存在し、かつ、虚血性心イベント発症の高危険群であるとの最初の報告である。さらに、予後予測マーカーとしての心筋トロポニンTの意義を拡大する重要な研究であり、学位の授与に値すると考えられる。